

世界経済史B		准教授 中村 一成	
科目カテゴリ	国際ビジネスコースの選択必修科目 経営・経済コースの専門選択科目	科目ナンバリング	23102205

1. 授業のねらい・概要

とめどないグローバル化が進行する今日、世界の社会経済を俯瞰する視点を獲得することは極めて重要な意味を持つ。それはナショナルな責任を負う立場であろうと、ローカルに暮らす立場であろうと変わりが無い。いま世の中で何が起きているのか、身近な現象と遙か遠い世界のどこかで生じている現象とを、結びつけて理解する能力が求められている。そうした能力を獲得する一つの方法として、本講義では世界の歴史を経済の視点から論じていく。

今年度は「方法としての経済史」について論じる。いつの時代にも「転換期」や「時代の岐路」が意識されるものだが、今日の日本で暮らす我々もまた先行きの不透明な時代を生きている。そのなかで自身の立ち位置を的確に理解するためには、眼前の事態にのみ拘泥するのではなく、時間軸に沿って思考の射程を過去に拡張し「後ろから前を視る」という思考様式、すなわち「歴史的思考様式」を身に着けることが望ましい。この際、思考の起点を過去の方に延ばせば延ばすほど自身の立ち位置はより明瞭となり、さらには「より確からしい未来」を展望することができるようになるであろう。本講義では上記の認識にもとづき、経済領域における「歴史的思考様式」を身につけるべく、「方法としての経済史」について学んでいく。

後期の世界経済史Bでは、近現代の時代を対象とする。

2. 授業の進め方

テキストを受講者同士で読み進めながら、「方法としての経済史」について学んでいく。とりわけ重要な用語・概念は重点的に解説する。テキストを補完する必要がある点については、別途資料を配布して論じる。

3. 授業計画

1. イントロダクション	9. 近代と現代
2. 産業革命論争	10. 第一次グローバル化
3. 産業革命概念の諸相	11. 第一次大戦と世界経済
4. 資本主義の経済制度	12. 第二次大戦と世界経済
5. 国家と経済	13. 第二次グローバル化
6. 自然と経済	14. 経済成長の限界と可能性
7. 家と経済	15. 総括
8. 資本主義の世界体制	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

初回授業で配布する進行予定表にもとづいてテキストの次回授業で扱う部分を熟読するとともに、知らない用語について意味を調べ、毎回配布する課題プリントに取り組むこと。必要な時間の目安は90～120分ほど。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験終了後、模範解答を掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

「方法としての経済史」について理解し、他者に対して文章・口頭で説明することができるようになること。

7. 成績評価の方法・基準

毎回提出する課題およびレスポンスペーパー（50%）、期末試験（50%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

【テキスト】小野塚知二『経済史 いまを知り，未来を生きるために』（有斐閣，2018 年）

9. 受講上の留意事項

授業にはテキストを必ず持参すること。

前期の世界経済史 A を併せて受講することが望ましい。